

ふる〜ぶ

吉野川ファン通信

VOL.82

2006/12



Fleuve:「ふる〜ぶ」はフランス語で海にそそぐ大河のことです。
ひと、まち、自然、歴史、風景などの吉野川をとりまく様々な表情をみなさんにお伝えします。

1 page [特集] 吉野川アラカルト

吉野川を吟行しよう。
俳句に挑戦。

晩秋から、初冬の吉野川。
風情のある光景を俳句に詠んでみませんか？

3 page 吉野川いまむかし 徳島市編

ふる〜ぶ編集部がおじゃましま〜す！
川内北小学校
『見たい、知りたい、川内町。
みんなでたんけん地図を作ろう!!』

5 page ふる〜ぶめいと通信 人形浄瑠璃公演 「天水」を祭る神社発見

6 page Ra♪Ra♪Ra♪エッセイ 風邪対策

ふる〜ぶINFORMATION
「ふる〜ぶ」のホームページが完成しました。

7 page よりよい吉野川づくり<第19回> ＝レキ河原の再生＝

ふる〜ぶひろば
編集後記・今月の表紙イラスト・プレゼント



吉野川を吟行しよう。 俳句に挑戦。

晩秋から、初冬の吉野川。

ひんやりとした空気、雁のゆく空、夕暮れの寂しさ、鳴く虫の声。

風情のある光景が広がっています。このような光景を俳句に詠んでみませんか？

晩秋の一日、ふる～ぶ編集部が俳句に挑戦しました。

講師

上窪 和男さん

【俳号】上窪 青樹
風嶺俳句会 代表



◎プロフィール

◆16歳の時に、担任の先生の影響で俳句をはじめ。その後、ひまわり俳句会に入会、その後俳誌『鴈』にも入会し投句を続ける。◆平成4年風嶺俳句会を立ち上げる。◆会員は、現在120名。会社員、農業、主婦などさまざまな方がいる。◆風嶺の風は、自由きままイメージ。風のもつ気楽なイメージを持ち、格式にとらわれず、好きな俳句を楽しみながら、自分の目指す俳句の嶺に到達しようと研鑽している。



吟行場所 徳島市応神町 吉野川橋北詰 アンダーパス付近／吉野川橋や眉山が美しく見える場所

俳句の魅力

講師の上窪さんとは、初対面。「今日は、俳句を作らなくては、どうしよう」緊張していた編集部ふたり。そんな私たちを、風嶺俳句会のモットーのように、風のもつ気楽なイメージそのままの、おおらかな笑顔で迎えてくださいました。

「俳句は、近年ブームになっているものの、おふたりのように、難しいというイメージを持っている人も多くいます。でも、五・七・五の十七文字のなかに、自分の見たもの、聞いたものを詠み込む。実に分かりやすいものなんですよ」と上窪さん。

また、俳句は、五・七・五の十七文字をつながっていると考えるのではなく、あくまで、五文字・七文字・五文字の独立したことばの組み合わせであり、それぞれのことばのぶつかり合いから、衝撃が生まれたり、面白さが生まれたりすることも教えてくださいました。

例

3 流燈や まわりさみしき 人ばかり	2 りんどうや まわりさみしき 人ばかり	1 ひまわりや まわりさみしき 人ばかり
--	--	--

上窪さんの説明

②、③はさみしいもの同士の取り合わせで、少し当たり前すぎる感がある。ここにひまわりという明るさの象徴というべき花を持ってくると、まわりのさみしさが際立つ。
ひまわりが明るく咲く様子を見た。しかし、まわりを見てみると、さみしそうな人ばかり。時代とともに、いろいろなものを背負った人、さびしい人も増える。という印象を受けます。

このように、五・七・五の最初の五文字の言葉が違っただけでも、受ける印象は、大きく違います。今まで、俳句というものは、短すぎて、自分の言いたいこと、伝えたいことが、読み手に伝わらないと思っていました。でも、「俳句は、読んだ人全員同じ感覚を持つものではありません。それぞれの思いがあります。むしろ、10人が10人それぞれの見方をしてくれるのが、俳句の面白みでもあるんですよ」という

上窪さんのお話を聞いて、肩の力が抜けていくのを感じました。

その他、季語を知っていると、俳句の世界が広がるということ、(そのため、俳句をする人は、歳時記というものを持っている)、「や」「かな」「けり」など切れ字には、つけたその言葉を強調させたり、場面を転換させる役割を持っていることなど、俳句は、中途半端に言葉を続けるのでは

なく、ずばっと言い切ることなどを教えていただき、いよいよ俳句にチャレンジ。

「まず、五感を働かせて、一番詠みたいものを探しましょう」という上窪さんの言葉に吉野川の川べりを歩き、詠みたいものを見つけました。

では、編集部の句を披露しましょう。

川西 洋子

トラス橋雁が二羽ゆく夕暮れに

上窪さんの添削

夕暮れに雁が二羽ゆくトラス橋にしましう、内容は同じです。

萩の風吹く川べりにひとりかな

上窪さんの添削

川べりにひとりたたずみ萩の風としましう、吹くは当然ですから省きます。

藪田ひとみ

釣り人や萩の風と競演す

上窪さんの添削

萩の風 釣る人と競演す
あの日釣っていたのは鰲ですから具体的にを入れておきましょう。

流木がころころげ秋の風

講師の上窪青樹さん

秋の風夕日に入りて女待つ

流木に斧の傷あり雁渡し

花菱や記者ネックレス輝かす



季語を知っていると世界が広がる！ 今回の取材で利用した季語【秋の季語】萩の風・雁・花菱

いかがですか？

上窪さんによれば、俳句は、沈黙の文芸。

作者は、語りきらず、読者にゆだねるもの。読者の皆さんそれぞれの思いで読んでみてください。

気軽にチャレンジできる吉野川での俳句づくり。

吉野川の水に触れることのできるこの場所は、上窪さんもよく俳句を作りくる場所。

「吉野川橋も、眉山も見える。棒杭のたつ川の水面と船も絵になります。

ここは、海水と淡水の交じり合った汽水域で、その潮の境目が見えることもある。また、季節を通じてさまざま草花が競演するなど俳句を詠むのには、いい場所ですよ」との上窪さんの言葉。

皆さんも、吉野川へ俳句を作りに出かけてみませんか？言葉と言葉のぶつかり合いから、生まれる趣や味わいを感じ、心こまやかに、素敵ななにかを発見しませんか？

徳島市編

吉野川 いま むかし

このコーナーでは、吉野川の
今と昔の写真を見ることによって、
ふるき時代をみつめ、
未来の吉野川を創造します。

今回は、徳島市にお住まいの郡彪さん(76歳)が所有されている写真を紹介します。
子どもの頃、5銭をにぎりしめ駄菓子屋さんで日光写真に夢中になったのが、
郡さんと写真の出会いでした。子どもから青年となった学生時代、カメラを購入し、
撮影した写真は自分で現像を行いました。引き伸ばし機も見よう見まねで、
自分で作成したそうです。学生時代には、写真部を先輩と一緒に立ち上げたほど。
今回掲載している昔の写真は、すべて郡さんが昭和25年から26年にかけて
自分で撮影し、現像されたものです。



吉野川橋

吉野川橋を通るのは人と自転車。



昔



吉野川河口付近

河口付近の堤防道。オート三輪がエンジンストップをしてしまい、動かそうとしているところ。この当時、自動車の姿はまだ見られず、オート三輪が主流でした。吉野川大橋はまだありません。

吉野川橋

現在の吉野川橋では多くの車が通っています。

今



吉野川河川敷

吉野川大橋が見える。

吉野川運動広場では、野球場やサッカー場があり、また堤防ではウォーキングを楽しむ人がいたり、市民の憩いの場として知られています。

今



昔



沖ノ洲樋門より

吉野川河口にある当時の沖ノ洲樋門から撮影。

現在の沖ノ洲樋門が竣工されたのは昭和46年。

昔



住吉島川

徳島市安宅と城東町を結ぶ安宅新橋の上流から撮影したもの。護岸の石積みや松並木など、今とは違う風景がみられます。



昔

住吉島川

現在は、住宅街となっています。

今



今



沖ノ洲樋門より撮影
東環状大橋(仮称)が建設中。

ふる~ぶ 編集部が おじゃまします!



完成した探検地図をバックに集まってくれた子どもたち

川内北 小学校 の巻

吉野川下流北岸の平野。地図のうえで見ると、まわりを吉野川と今切川に囲まれた丸い島のような場所に学校はあります。

「東西南北なにが見える?」まず、学

校の屋上に上がり、どちらが東で、どちらが西なのか、地図上で、学校がどこにあるのかを知ることから始まった学習。この学習は、「見たい、知りたい、川内町」と名づけられ、3年生が、4月から9月まで、自分たちの住む川内町を歩き、探検地図を完成させました。



完成した探検地図

取材日は、学校での発表会の日。まず、黒板に張られた探検地図にびっくり。こんなにいろいろな発見があったのかと思うほど、たくさんの情報がびっしり書かれています。その地図からは、子どもたちの元気な声が聞こえてくるようです。

田んぼにレンコン畑やサツマイモ畑あり、開閉橋あり、工場群あり、国道11号にできれば、多くの車が走り、商業施設もすぐ身近な場所にあります。また、川内町には、阿波十郎兵衛屋敷もあり、文化の香りの高い場所。この学

『見たい、知りたい、川内町。みんなでたんけん地図を作ろう!!』

校にも、人形浄瑠璃のクラブがあるそうです。

4月に計画づくりをした後は、東コース、西コース、南コース、北コースに分かれて、校区を歩き、自分たちの見たもの、聞いたものを地図に書き込んでいく作業を行いました。

その内容も、担当の阿部美千代先生によれば、学習当初は、犬に会った、花が咲いていた、というものから、今切川で、真っ白な砂の粒のようなものをおろしている船を見ました。川べりにトラックがきて、それを乗せて、工場に入っていました。調べてみると、それは、石鹼にする材料でした。などと濃い内容のものになってきたそうです。

低学年から、中学年へ。少しずつ自分の世界を広げつつある年代。「今までは、足もとしかみていなかったけれど、見ていなかった新しい発見があったのでは」と、阿部先生。「まず、自分の家が地図のどこにあるか、知ることができたのがよかったようです」と付け加えてくださいました。

実際に、校区を歩いての探検は、5月、6月。3年生の子どもたちにとっては、初めての体験。暑いなか、広い校区を歩いての探検は、決して楽しいことばかりではなかったはず。それを乗り越えて、自分の郷土を歩いたのは、社会を深く見つめる第一歩だったといえるでしょう。

今回の経験を生かし、4年生では、国際理解について、学んでいくそうです。

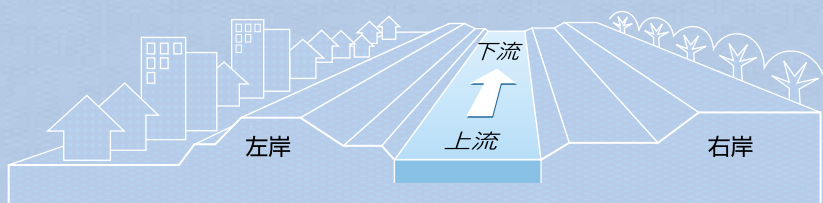


探検の様子を発表する子どもたち

吉野川 辞典

う 右岸、左岸 (うがん、さがん)

河川を上流から、下流に向かって眺めたとき、右側を右岸、左側を左岸と呼びます。





「ふる〜ぶめいと」は、
吉野川が大好きな
人たちの集まりです。

「ふる〜ぶめいと」の活動は、吉野川や吉野川流域に関する身近な情報を「ふる〜ぶ」に提供することにより、
吉野川に親しみや、関心を持っていただいて、吉野川ファンの輪を広げていただくことを目的にしています。

めいと レポート

人形浄瑠璃公演 阿波市 森 澄子さん

市場の伝統行事「やねこじき」の協賛行事(徳島新聞社主催)として、若宮神社境内で、神山町の寄井座が、阿波人形浄瑠璃の小屋掛け公演を行った。

最初の「木偶の動かし方教室」では、地元の子どもたちは、人形に直接触れて座員の説明を真剣に聞いていた。その姿を見て、子に対する親たちの思い、そしてこの人形浄瑠璃の伝統が未来に伝わってほしいと感じた。



風が少なく、秋晴れの神社境内で200人の見物客は、傾城阿波の鳴門「巡礼歌の段」お弓とお鶴の親子の情が、浄瑠璃とともに、伝わってきた。「貞阿上人滝行場の段」

では、人形1体に、3人の座員がつくが、5体揃うと、15人の座員とひょうし打ち1名で、16人もの人が舞台せましと、動きまわるのには、大変な仕事(人形芝居を公演すること)だと思いました。

めいと レポート

「天水(吉野川?)」を祭る神社発見 吉野川市 今中 忠重さん

先日行われた日本文化デザイン会議のテーマ「天水」を探り新しい発見をするというツアーに参加し、「天水」を祭る神社があることを知りました。

元吉野川の流路の一部であった江川と飯尾川に挟まれた「杉尾神社」通称「天水神社」。

祭神は「天水沼間彦命(あめのみぬまひこのみこと)」と「天水塞姫命(あめのせきひめのみこと)」。この付近は氾濫が絶えなかった地であったため水を塞ぎ止め貯水池を管理して氾濫を防ぐ水神を祭ったのです。

社名の杉尾の杉は舟の材料。吉野川流域に降る雨水「天水」は農業を興し水運にも大事な恵みの水であることから、

それに感謝するためにこの神社が創建されたとも考えられます。

氾濫のないように願いそして恵みに感謝する。これらことから「天水」とは吉野川。すなわち吉野川をご神体とする神社だ

と言えるのではないのでしょうか。



*「杉尾神社」へはJR徳島線「牛島駅」下車北へ300m。

ハーブ農園 からの風

このコーナーでは、「ふる〜ぶめいと」の黒川慶子さんにハーブの楽しみ方を中心に、食と健康、水の大切さなどについて語っていただきます。楽しいレシピなども登場しますよ。

風邪対策

「カモミール」

ヒナギクに似た可憐な花と、りんごの香りがするカモミールは、「万能ハーブ」とか「お母さんのハーブ」「お医者さんの草」などと呼ばれています。鎮静作用と消化促進作用にすぐれ、食べ過ぎ、腹痛、風邪の症状に対して民間薬として古くから親しまれてきました。リラックス作用もあるので、不眠症や神経性の便秘にも、効果的です。また、ホルモンのバランスを整え、生理不順や冷え症、貧血の改善にも役立ちます。ドライハーブティーを湿布に使用すれば、傷や湿疹、やけどの治りを早めます。また、ハーブティーを入れたお風呂に入れば肌がなめらかになり、疲労を回復してくれるでしょう。目の疲れには、使用後の冷めたティーバッグをまぶたの上に載せるアイパックが有効です。お茶の入れ方は、フレッシュハーブを利用する場合は、カップ一杯のお湯に対して、花五〜六個が適当です。



が痛んで風邪の予感がする時、あるいは、家族や職場に風邪をひいた人がいるときには、タイムティーを二杯用意します。最初の一杯はうがい用に使い、二杯目を飲みます。こうするとウイルスの侵入を防ぎ、風邪の予防に効果絶大です。

「ユーカリ」

非常に強い抗菌、抗ウイルス作用を持ったユーカリは、ハーブティーでうがいをしたり、蒸気の吸入で、のどの痛み、鼻づまり、風邪による咳、胸の痛みが和らぎます。また、アレルギー性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎にも効果があるといわれています。

「セルフケア」より、「セルフ・キユア」。民間薬として、身近なハーブを有効活用し、あわただしい年末を乗り切ってください。

「タイム」

インフルエンザの季節や、のど

【黒川慶子さん経歴】

ハーブコーディネーター
板野町でハーブ農園を営む。
食と健康について、講演も務める。
徳島県薬草協会会員
上板町薬草協会会員

ふる〜ぶ

INFORMATION

「ふる〜ぶ」の ホームページが 完成しました。



長らくお休みをいただいていた「ふる〜ぶ」のホームページが復活しました。

その内容は、

- ◆吉野川の流域情報を満載した「ふる〜ぶ本誌」
- ◆ふる〜ぶの日々のようすを綴った **ふる〜ぶ日記**
- ◆吉野川で摘んだ野草を使ったレシピや、流域の旬の食材を使った料理レシピなどを掲載する **吉野川レストラン**
- ◆吉野川流域のイベントを紹介する **吉野川イベント情報**
- ◆みなさまからの情報やお便りを募集する **お便りコーナー**
- ◆わらそうり作りや、野草料理教室など、ふる〜ぶが開催するイベントへの参加募集等を行う **インフォメーション** など。

新キャラクター
登場!!



また、めぐみちゃん、しぶきくん、みなもちゃんという新しいキャラクターも、登場しています。今後、ふる〜ぶ本誌や、イベント、ホームページ等にどんどん登場していきますので、皆さん可愛がってくださいね。

まだまだ産声をあげたばかりですが、今後少しずつコンテンツも、充実していく予定です。皆さん、生まれ変わった「ふる〜ぶ」のホームページをどうぞよろしくお願いいたします。

<http://e-fleuve.info/>

＝レキ河原の再生＝

吉野川水系河川整備計画【素案】—吉野川の河川整備(直轄管理区間)—は、よりよい吉野川づくりをめざし、皆さんのご意見をもとにつくりあげていくものです。その中身は、吉野川及び旧吉野川・今切川の現在の状態と今後の課題、河川の工事内容や、どのように維持管理をしていくかについて、また河川環境の目標など、今後20年から30年程度の吉野川の具体的整備内容を記しています。今回は、前回の内水対策に続いて、レキ河原の保全・再生についてお伝えします。

【素案】P50には、吉野川及び旧吉野川・今切川における河川整備の基本理念が示されています。

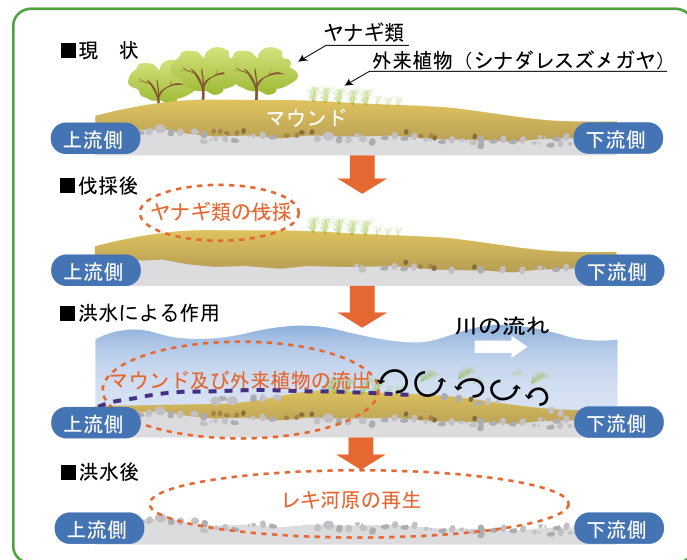
この中の項目のひとつに、○**河川本来の自然環境を有する吉野川の再生**『吉野川に残る良好な自然環境・景観等を保全するとともに、近年失われつつある吉野川が本来有する**レキ河原**や**エコトーン**、**清浄な吉野川の流れ**など**自然環境の再生**を図るための施策を展開する。』と書かれています。

雄大な吉野川の流れは、竹林や、レキ河原など豊かな自然環境を育んできました。しかし、近年ではシナダレスズメガヤ等の外来植物が河原に繁茂し、レキ河原に依存する動植物への影響が懸念されており、吉野川らしい広いレキ河原を保全、再生することが必要となってきました。

レキ河原保全・再生の対策として、【素案】には、『**川が本来持っている洪水営力**を可能な限り利用することを基本と

し、侵入・拡大の要因となる河道内樹木の伐採を実施するとともに、人為的な除去対策として、直接的な抜きとり等の対策についても検討する。また、対策の実施箇所については、シナダレスズメガヤの繁茂状況、定着特性、レキ河原を利用する動植物の重要性等を踏まえて決定する。』と書かれています。

これらのレキ河原の再生を含めて、河川環境の整備と保全に関する事項は、P86、87、88に書かれています。

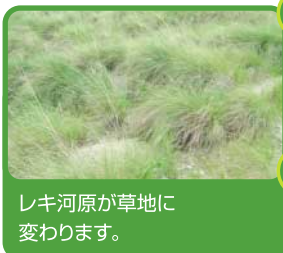


用語解説
※**レキ河原**…礫(小さい石ころ)や、砂礫(砂と小さい石ころ)からなる河原。
※**エコトーン**…水辺から、陸に向かって、ゆるやかに移り変わっていく環境。水辺と陸の環境が連続して変化しているため、多くの種類の動植物が見られる。
※**洪水営力**…洪水時、流れる水の力。

よりよい吉野川づくり吉野川水系河川整備計画については
<http://www.yoshinoriver.info>

【素案】についても、こちらのページよりごらんになれます。このコーナーでは、吉野川水系河川整備計画【素案】—吉野川の河川整備(直轄管理区間)—の内容について、不定期にお伝えしていく予定です。

レキ河原にシナダレスズメガヤが侵入すると



ふる〜ぶ

ふる〜ぶ編集後記
俳句は難しいものかと思いましたが、色々な感じで作ってもいいのだということがわかりました。近くにあるものと遠くにあるものを組み合わせると、虫の音や空の色など、普段は気づかない景色に気がつく。俳句は奥が深いですね。(や)
初めての俳句、はじめはどうなるのかなと思っていました。でも、いろいろと教えていただいているうちに、「先生、これはどうですか?」と、次々に俳句が完成。たくさん作って、いい句だけを残していけばいいんですよ。との、先生の言葉に心がほっとしました。みなさんも、お気軽に挑戦してみてくださいね。(か)

「川からサタがやってくる」
(写真提供:NPO法人新町川を守る会)
NPO法人新町川を守る会主催、クリスマス恒例のイベント「サタがやってくる」が今年も12月23日〜25日の3日間、午後6時から9時まで開催されます。サタがやってくるに乗ったサタが徳島市内を流れる新町川や助任川に現れ、川から子どもたちに向かってプレゼントを投げつけていきます。3日間で3千個のプレゼントが用意されています。是非サタに会いにクリスマスは新町川、助任川へ!

今月の表紙イラスト

亥の干支プレゼント
佐藤潔さんが吉野川の竹を使ってつくった亥の干支竹細工を抽選で1名様にプレゼントします。ご希望の方はお書またはFAXに住所、氏名、電話番号、誌面の感想もお書きください。締切は12月28日(木)です。
〒771-1156
徳島市応神町応神産業団地13-28
ふる〜ぶ編集部 竹細工プレゼント係

ふる〜ぶは、吉野川流域の市町村役場、図書館、博物館、公民館等の公共施設および道の駅にて、持ち帰りお読みいただくことができます。皆様ご愛読ください。